

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	演劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ゆうげんがいしゃげきだんどうら		
	制作団体名	有限会社劇団銅鑼		
	代表者職・氏名	横手 寿男	団体ウェブサイトURL	
			http://www.gekidandora.com/	
	制作団体所在地	〒 174-0064	最寄駅(バス停)	上板橋駅
		東京都板橋区中台1-1-4		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名		団体ウェブサイトURL	
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	1972年8月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表取締役 横手寿男 運営委員 館野元彦 平野真弓 竹内奈緒子 池上礼朗 齋藤裕樹 監査 福田悦雄	(1) 主な構成員 団員60名 構成員補3名 団友3名 (2) 主な構成員 佐藤文雄(俳優) 菊地佐玖子(俳優) 谷田川さほ(俳優) (3) 加入条件 構成員として一定期間を終了した者	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	齋藤裕樹
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	佐久博美
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		info@gekidandora.com		0339371101

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1972年 劇団民藝出身者を中心に演劇集団として活動を開始。</p> <p>1990年 本拠地を板橋区に移す。</p> <p>1994年 初の海外公演実施(リトアニア)、以来国際交流事業を一つの柱にする。</p> <p>1995年 板橋区文化振興財団(現・(公財)板橋区文化・国際交流財団)との年一回以上の共催事業を開始。</p> <p>2005年 若者自立塾などにおける演劇によるワークショップ事業開始。</p> <p>2012年 稽古場を建立。劇場認定を受ける。</p> <p>・1993年 文化庁優秀舞台芸術奨励公演、東京都優秀児童演劇優秀賞『センポ・スギハアラ』</p> <p>・1999年 池袋演劇祭大賞『池袋モンパルナス』</p> <p>・2024年 シアターグリーンフェスタ賞(大賞)『ふしぎな木の実の料理法～こそあどの森の物語～』</p>
	学校等における公演実績	<p>1978年より青少年公演開始。主な作品に『センポ・スギハアラ』『明日へ出発』など多数。累計3,000公演以上の学校公演の実績あり。年間50～100回学校で上演を続けている。『いのちの花』は2018年より小学校・中学校合同公演や高等学校公演、全国おやこ劇場子ども劇場例会として上演。合計232ステージを実施。</p> <p>主な学校公演作品 『明日へ出発』『センポ・スギハアラ』『Big brother』『エイジアン・パラダイス』『らぶそんぐ』『チャージ』『ハンナのかばん』『いのちの花』</p> <p>(直近・学校公演のみ) 令和4年度『いのちの花』全国10か所 23公演 令和5年度『いのちの花』全国18か所 28公演 令和6年度『いのちの花』全国9か所 20公演 『「真っ赤なお鼻」の放課後』全国9か所 14公演 令和7年度『「真っ赤なお鼻」の放課後』全国12か所 19公演(予定)</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>多数作品で、特別支援学校での上演実績あり。 事前に資料・台本などの配布で対応。盲学校に対してはイヤホンガイド付き公演、聾学校では学校と共同で字幕作成を実施。</p> <p>舞台手話付き公演の実績あり。</p> <p>・令和3年度『いのちの花』舞台手話付き公演 練馬文化センター 3公演 ・令和5年度『いのちの花』舞台手話付き公演 十和田市文化センター 2公演 名取市文化会館大ホール・藤樹の里文化芸術館・広島市東区民文化センター・天草市民センター・秋田県児童会館みらいあ子ども劇場 各1公演 ・令和6年『ふしぎな木の実の料理法～こそあどの森の物語～』舞台手話付き公演 シアターグリーン BIG TREE THEATER 3公演</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/xPZVZ5J6f-c
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID: <input type="text"/> PW: <input type="text"/>

別添	なし
----	----

【公演団体名 有限会社劇団銅鑼】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	『ポニーテールの功罪～だかし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか?～』			
企画のねらい	小学校低学年から読める絵本が原案。生まれつきの性別は女性だけれど「女のふり」をやめて生きる“おっちゃん”、弱虫で女の子にもぶつとばされてしまう“みっちゃん”、そして男まさりの友だち“まきちゃん”が登場します。彼らから、「こうあるべき」という決めつけや思い込み、偏見、そして葛藤を乗り越え、「自分らしく生きること」と「それを尊重すること」の大切さを考えるきっかけをもらうことが出来ます。多様性の大切さがますます大切になるこれから、自分とは違う、と他者を切り捨ててしまう日常ではなく、自分とは違う他者(登場人物)にハラハラしたり、応援したり、と「エンパシー」を実感することにより、それぞれの「自分らしさ」を重ねてもらうことを目標としています。			
演目概要・演目選択理由	真紀と早苗は進路に、人間関係に・・・と、絶賛お悩み中の多感な高校3年生。学校の伝統行事である味噌当番のグループ分けで、ふたりは一軍キラキラ女子の友華と一緒にグループになることに。あまり接点のなかった3人がさぐりさぐり話し始めたところに、謎の人物が現れる。加えて高校ではなにやら事件があったようで・・・。謎の人物を追いかけて応接室に向かった真紀と早苗と友華。三人が応接室の扉を開くと、「だかし屋のおっちゃん」の世界にタイムスリップ。そこで三人が気づいたものとは・・・。「ジェンダー問題」「男らしさ、女らしさとはなにか?」を考える入り口になると評価を得ている多屋光孫の絵本「だかし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか?」を原案に、現代社会を生きていく窮屈さ、それでも信じたい人間愛を描いた物語。			
児童・生徒の参加または体験の形態	劇中、歌を歌うシーンがあるので、事前に音源を渡している曲をそこで一緒に歌う。 他にも搬入・搬出のお手伝いなどを通じて、俳優・スタッフたちとの交流も出来ます。 終演後に出演者1～2名と座談会も可能。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演		参加・体験人数目安	30名
			鑑賞人数目安	300名
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	原案:多屋光孫(「だかし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか?」汐文社刊)			
	脚本:山谷典子			
公演時間	演出:磯村 純			
	振付:明羽美姫			
出演者	井上公美子・早坂聡美・宮崎愛美・向暁子・池上礼朗 ※上記俳優は予定です			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	山谷典子(脚本):文学座演劇部座員として2021年まで在籍。現在は演劇集団Ring-Bongを拠点にフリーの劇作家として活動。劇団俳優座、劇団銅鑼、椿組、Pカンパニー、NHKラジオドラマなどの執筆も手掛ける。桜美林大学演劇科非常勤講師、都立総合芸術高校演劇科市民講師。 磯村純(演出):演出家。劇団青年座所属。演劇創作チームavenir'eメンバー。主な演出作品に『ブンナよ、木からおりてこい』『穏やかな人と機』『星を追う人コメットハンター』『バウムクーヘンとヒロシマ』等がある。大学や専門学校、自治体などで演劇講師としても活動中。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	5	名	運搬 積載量: 2 t 車 長: 4.7 m 台 数: 1 台
	スタッフ:	5	名	
	合 計:	10	名	

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		有		前日仕込所要時間		5	時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
	8時	8時～13時 11時過ぎ出演児童リハーサル (授業1コマ分)		13時30分～ 14時50分	0分	15時00分～16時	16時30分	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められま せん)。	6月		7月		8月		9月	
	10日		10日		0日		0日	
	10月		11月		12月		1月	
	10日		10日		10日		0日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		50日	
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)								
	<p>①仕込みの様子 体育館の床全面に大道具や照明の機材を広げて作業します。 その間生徒さんの体育館の使用は出来ません。</p>							
								
	<p>②体育館ステージに舞台を設置した状態。 上下に照明機材あり。</p> <p>舞台設置に必要な面積 奥行4.5m以上 (※4.4m以下の場合平土間での公演となります。) 間口9m以上 高さ(舞台上～文字まで) 4.5m以上</p>							
※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡								
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要 否		該当なし		該当コンテンツ名			
	該当事項がある 場合	権利者名			許諾確認状況			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

有限会社劇団銅鑼

】

ワークショップの内容

ワークショップの
ねらい

「自分らしさ」をシアターゲームを通じて考えます。他者との違いをどのように受け止めるか、違いを受け入れるにはどうすればいいか、原案の絵本『だがし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか?』も取り入れ、想像力と創造力でジェンダー問題を考える入口にもなります。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

30人

ワークショップ
実施形態及び内容

標準:100分

事前に各自で「呼ばれたい名前」を養生テープにマジックで書いて貼ってもらいます。本名に限らず「呼ばれたい名前」にすることで、普段とは違う自分、相手を発見する一助とし、創造的な空間を作ります。

■シアターゲーム(10分)

人数や年齢に合わせたシアターゲームを行います。ゲームを楽しみながら緊張を解いていき、より創造、表現を発展させやすい関係性を築いていきます。その流れの中で、徐々に演劇体験に入っていきます。

■二分化ゲーム(10分)

お題を決めてどちら派かにわかれるゲーム。アピールタイムでこちらが良い理由をアピールし合い、心が動いたら移動も可能。中間の人がいても良いです。

■ピクチャー(20分)

『ボニーテールの功罪』の主題に沿ったテーマを使い、身体を使って一枚の写真を作ります。みんなで意見を出しあい、どういう場面か考え、何かの役で参加しその気持ちを想像します。

《休憩(10分)》

■問いづくり(20分)

絵本の一ページを見て、「問い」(？が最後につく文)を考え、紙に書きます。チーム内で一番興味深い「問い」をもとに哲学対話の手法を使って話し合います。

■公演の話(20分)

出演シーンや、やってもらうことの説明をします。その場面の場所、何が行われているのか説明します。また、実際の出演シーンを見て、登場人物たちがどういう心情か想像します。

■歌の練習(10分)

事前に音源と楽譜を渡し、練習しておいてもらいます。ワークショップ当日に、一度歌ってみます。

※時間があれば、本日の感想などを皆で話し、共有します。

その他ワークショップに
関する特記事項等

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 有限会社劇団銅鑼 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		条件なし		主幹引き込み電源容量		50	A以上
舞台設置面積	間口	9 m		奥行	4.5 m		
	高さ	条件なし	m				
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応		可	
搬入間口の広さ	幅	1.8 m		高さ	1.8 m		
遮光の要否	5割程度必要		緞帳の要否			不要	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			なし	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			10	m以内
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台			
搬入車両の大きさ	車幅	1.7 m		車長	4.7 m		
備考							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	トラックの駐車スペースの確認。門から搬入口までの経路写真。分電盤の写真。	

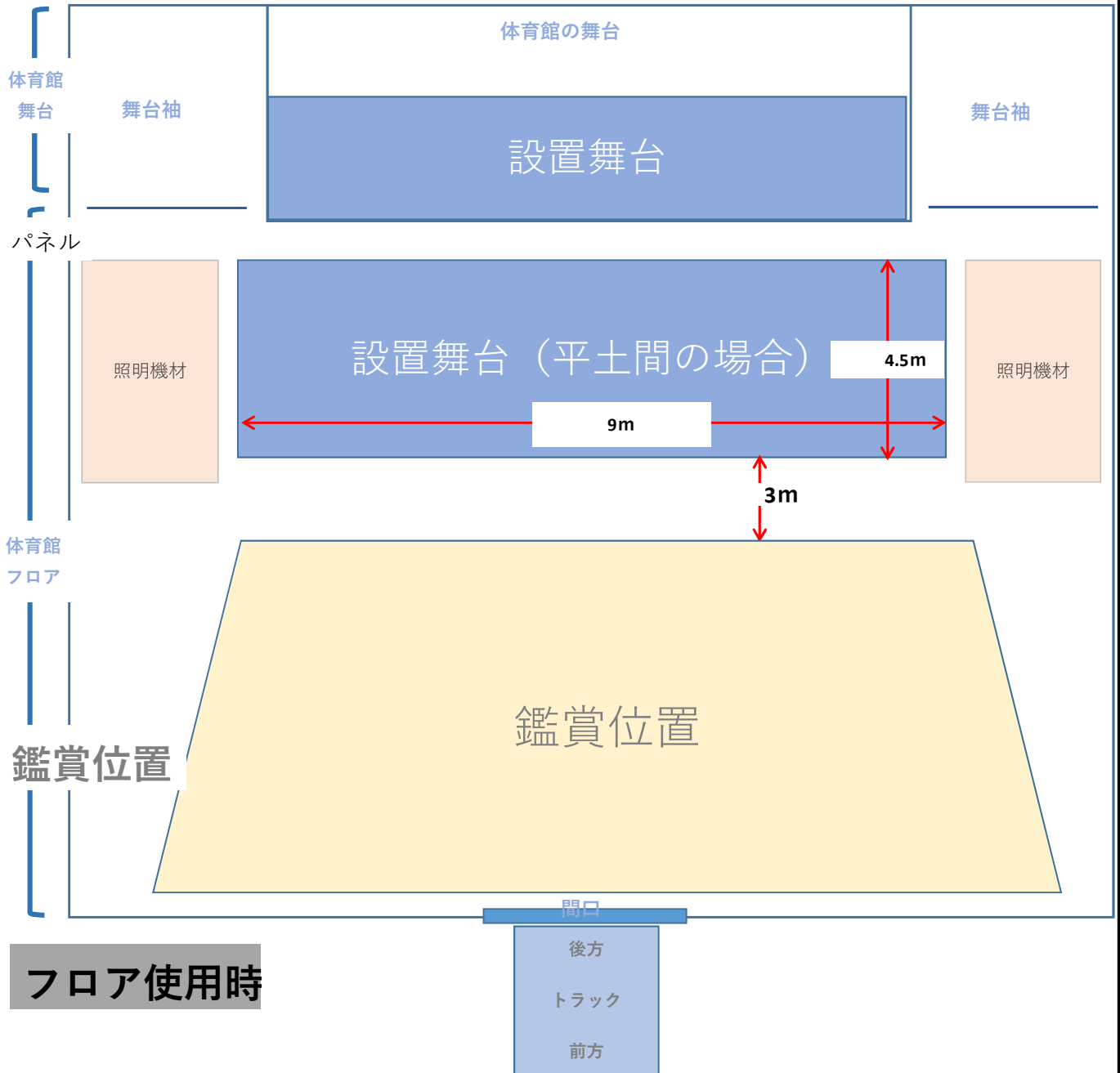
時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒			歌の練習	できる範囲で構いません
	ワークショップ					
	本公演					
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
		個別ヒアリング事項
	1	体育館公演の場合前日仕込みが必須となります。対応可能でしょうか？（特に月曜日の公演の場合、前日の日・祝日のご対応）
	2	
	3	

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名

有限会社劇団銅鑼

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

劇団銅鑼は本事業以外にも小学校・中学校・高等学校での公演を行っています。近年、生徒数の減少・地域格差もあって、演劇公演を「実施したくても出来ない」学校が増えて来ている様に感じます。生徒数の減少に伴い、予算を集められなくなり、他の学校行事もある中で一番最初に削られるのがこの「芸術鑑賞」と言われています。こうした減少傾向にある学校巡回公演において、本事業は「生徒数や予算の少ない学校」や「通常では実施出来ない学校」に質の高い演劇を届ける事ができるとも有意義な事業であると考えます。

演劇は心の栄養だと考えます。私達劇団銅鑼も本事業の一助となるべく、普段何う事の出来ない場所での公演を行い、将来を担う子供たちに質の高い演劇公演を届け、子どもたちの豊かな感情を育む場を作っていきます。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

「自分らしさって？」をテーマに、お互いの違いに気づき、お互いを認め尊重できることを目的とする、ワークショップを実施。まずは劇中の歌「モヤモヤ研究所」を出演者が歌唱指導し、コミュニケーションを築きながら、演劇に参加することの面白さを生徒に伝えます。

本番では歌の合間に自分の中にある「モヤモヤすること」を自由に言ってもらいます。演劇という日常ではない空間で言うことにより、普段言えなかったこと、実はもやもやしていたことに自分でも気づき、また他の児童・生徒さんも、「自分と同じだ」「そんなこと思っていたんだ」「面白い」など、他者の言葉によって影響される心の体験を体感できます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

実施校の担当先生にお電話でご連絡を入れることは当然として、劇団銅鑼独自の「当日進行予定表」(体育館にシートを敷くのか？椅子に座るのか床に座るのか？椅子の場合は教室から持ってくるのか？ステージ下から出すのか？ご挨拶の有無・・・etc)をメールでお送りしておき、不明な点等は本番当日までには解消し、ストレスなく当日を迎えられるように工夫しております。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

これまで実施してきた事例ですと、大きな音や暗闇が苦手な生徒は入り口付近や2階のギャラリーなどでの鑑賞(学校側からの提示で)してもらったり、障害があって車椅子での生活になっている生徒にも同じように鑑賞していただいた経験もあります。

地方ほど、そういった車椅子や自閉症の生徒や発達障害のある生徒に対しての仲間意識が強いと感じ、皆が側にいるという感じも見取れます。そういった部分での学校側の意向を柔軟に受け取れる土壌は出来ております。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

希望のある学校には終演後に事後合評会を取り行っております。ただ鑑賞するだけではなく、「鑑賞してどう感じたか？」「自分ならどうするか？」など、先ほどまで舞台上で演じていた俳優と交流を持ちながら話すことで一過性のものではなく、継続的な学びになるよう工夫していく。

これまでの事例ですと「いのちの花」という作品を上演した際に実際に同じようなプロジェクトを立ち上げた学校もありました。